

(学年) 第3学年, (教科・科目) HR 活動・キャリア教育

一斉学習

(単元) キャリアを積んでいくために～人生の先輩から学んでみよう～

(本時のねらい)

3学年の2学期後半となり, 将来の夢に向けた具体的な進路先が決まりつつある。本学級は普通科文系クラスであり, 在籍している生徒の約8割が大学や, 短大, 専門学校へ進学し, 約2割が就職を希望しているが, 生徒の中には, 強い意志を持って物事を継続させることが苦手な者も多い。そこで, お笑い芸人の〇さんを教材とし, 〇さんが数多の困難に襲われながらも自らの信念を持って挑み続け, お笑い芸人として成功したことを知り, 困難な状況においても夢に挑戦し続ける態度の育成を図った。また, 〇さんがお笑い芸人として成功したあともさらなる夢を持ち, 世界一周マラソンを成し遂げたことから, 生涯において夢や目標を持って挑戦し, キャリアを積んでいくことの素晴らしさについても感じ取ってもらいたいと思い, 本主題を設定した。

生徒が自分の進路決定について振り返り, その実現に向けて具体的なプランを立てることができること, また, 〇さんの人生を通じて自らの進路実現に対し主体的に取り組むことができることを本時のねらいとしている。

(ICT活用方法)

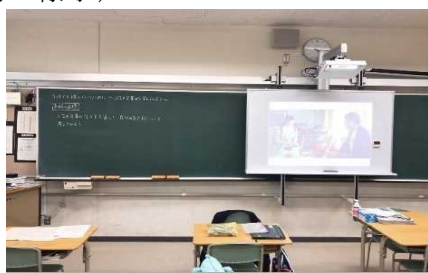
導入時, 前時の授業で生徒が記した内容や, 回答から導かれたデータをタブレットパソコンとプロジェクターを用いて提示し, 全体で振り返りを行った。本時のねらいにつながる回答があれば, 色を変えたり大きさを変えるなどして視覚的な支援となるよう工夫した。展開時に〇さんの人生について説明を行う際には, スライド内におさめる情報の数を絞り, 画像を添付するなどして, 生徒が簡単に理解できるようにした。また, 〇さんから生徒へのメッセージ動画を再生し, 生徒が自分の進路選択について肯定的に捉え, 今後の生き方を振り返ることができる手立てとした。

(本時の展開)

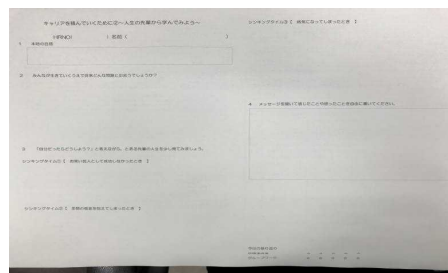
時間	学習活動	指導事項	ICT活用方法	備考
導入 5分	・前回の授業を振り返り, 本時の目標を確認する。	・前回の生徒の記述をいくつか紹介し, 本時の目標につなげる。	・タブレットパソコンとプロジェクターを用いて生徒の記述やデータを提示した。	・本時のめあては黒板に板書し, 授業の間に生徒が何度も確認できるようにした。
人生の先輩の生き方を通して, 自分の生き方について考えてみよう。				
展開 35分	1 将来, 影響を与えるかもしれない問題について考える。 2 〇さんの	・前回の生徒の記述を示し, 社会の問題や個人的な問題を生徒が共有する場を設ける。 ・「自分だったらどう	・タブレットパソコンとプロジェクターを用いて生徒の記述を提示した。 ・タブレットパソコンとプ	

	人生について知る。	するか」と投げかけ、自己を振り返る手立てとする。	ロジェクターを使って、年齢別に起こったことと関連する写真を提示し、○さんの人生を紹介した。
	3 ○さんからのメッセージを聞く。	・何人かの生徒に感想を聞き、生徒の学びを共有する。	・タブレットパソコンとプロジェクターを用いて○さんからのメッセージ動画を再生した。
	4 「キャリア」という言葉について考え、話し合い活動を行う。	・語源を提示することにより、言葉の意味を理解できるようにする。意思決定につながる話し合いを行わせる。	・キャリアの語源を写真とともに提示し、生徒のキャリアについての理解を深めた。
まとめ 5分	・本時の振り返りをする。	・簡単な質問項目と記述項目を提示し、振り返りの手助けとする。	・キャリアを積んでいくことについて自分なりの意見をまとめることができる。

(授業の様子)



板書の様子



使用したワークシート

(生徒の反応と課題、改善を要する点)

授業の大半を、タブレットパソコンとプロジェクターを使って行ったので、写真や映像などの視覚的な支援が可能となり、真剣に教師の話を受けている生徒の姿が印象的であった。従来は前回の振り返りなどに時間がかかったり、時間をかけても黒板や口頭での説明では不十分な場面が多くあり、その結果として本時のねらいにつながらないことも多々あった。タブレットパソコンとプロジェクターを用いてスライドに提示することによって時間が省かれ、テンポ良く本時の学習につながるということが可能となった。また、画像や動画を簡単に提示できるので、生徒が会う質の高い教材の数が増えて、深い学びにつながったのではないかと感じる。ワークシートには生徒自身が考える項目や記述する箇所もあったが、活動に入る前に前を見る時間かワークシートに書く時間かを指示することにより、どちらに集中すべきか迷うことなく取り組むことができているようである。しかし、授業を終えてみるとやはり板書の量が圧倒的に少なく、生徒がぱっと見て本時にどんな学習をしたかを認識しにくいので、スライドと黒板のバランスをもう少し考えた授業構造をすることが必要であると感じた。